



2015～16年度
国際ロータリー会長
K. R. ラビンドラン

Weekly Report Niigata



世界へのプレゼントになろう

2015～16年度 国際ロータリーのテーマ



2015～16年度
新潟ロータリークラブ会長
竹石 松次

新潟 RC5月第 3例会 (2016.5.24) No.3135

(1) ロータリーソング「我らの生業」斉唱

(2) 竹石 松次 会長挨拶

佐藤忠男

昭和五年(1930)～

新潟市生まれ、新潟市立工業高校(現・高志高校)卒業、中央区入船町の漁具店の八人兄弟の末っ子として生を受けた。三歳の時に父が病気で亡くなった。

小学校三、四年生頃から兄の使いで貸本屋に行き、講談社の少年講談シリーズや猿飛佐助などに触れていた。

昭和二十年(1945)五月、二葉小学校高等科に通学していた時、親の反対を押し切って海軍飛行予科練習生として入隊、和歌山県の高野山にあった訓練所で軍事訓練を受ける。

軍隊では、過酷な体罰が繰り返され、理由をつけては殴られる日々が続いた。三カ月ほどしたある日、午前中、桑畑をイモ畑に変えるため、桑の根を引っ張っていた。午後になって、近くの小学校で玉音放送が流された。雑音で何が放送されたか不明であったが、戦争が終わったことが告げられた。

その後、軍隊は解散となり、超満員の列車で故郷に戻った。八月十五日の終戦から半年、禁止されていたアメリカの映画が上映され、連合軍総司令部の民主主義教育が始まった訳である。

最初に観た映画は、娯楽映画「春の序曲」で、映画の中の世界に魅了されたほどであった。この時から映画に取りつかれ、「シナリオ文学全集」「近代劇全集」をむさぼるように読破した。

勤務先は、国鉄(現・JR)の鉄道教習所で、身分は公務員、技術を習得しながら給料が支給される安定的な職を得た。職場の地域も、新潟、村松(現・五泉市)、高田(現・上越市)と一年毎に場所が移動した。

寮生活の傍ら、シナリオをコンクールに投稿するが思うような結果は得られなかった。

鉄道教習所を卒業(1949)、神奈川県の大船電力区勤務となった。赴任から三カ月後、国鉄の人員整理で職を失い、再び新潟に戻る事となった。

昼は日本電信電話公社の臨時工員、夜は新潟市立工業高校(現・高志高校)定時制に通い、働きながら映画の勉強をする日々が続いた。

新潟市の繁華街、古町の映画館、東宝、松竹、大映、東映、グランド劇場、日劇、中央映画劇場、映画主流の時代、映画館通いで過ごした。

「キネマ旬報」「映画評論」に投稿を開始した、昭和二十四年(1949)、二十代前半の意気盛んな頃にした雑誌「思想の科学」で、股旅もの「沓掛時次郎」の『任侠について』をテーマに論評した、なぜヤクザ映画が大衆に受けるかを解釈したもので、自由になりたい気持ちとなれそうにない境遇の中で、矛盾を抱え、その葛藤が、人々の共感を受ける、と分析した内容である。

昭和三十一年(1956)、三一書房から「日本の映画」が出版され、翌年、キネマ旬報賞を受賞する。

これを機会に上京、月間「映画評論」の編集に加わる事になった。三年後には、編集長が病気になる、佐藤が編集をまかされる事になった。

早速、新人評論家を起用、水野晴夫、田山力也に原稿を依頼したほか、作家の小林信彦に、喜劇映画のギャグ特集を依頼するなど新しい風を吹かせた。また、「眠れる獅子松竹大船」を連載、衰退の兆しが見えた松竹を鼓舞する目的で連載した。

松竹が激怒し、反論の旗手として登場したのが助監督だった、若干二十七歳の島渚の原稿であった。

「記事には一つだけ欠点がある。この状態を打破する道が書いていない。われわれ若い優秀な助手を今すぐ監督にすれば状況は改善される」という血気盛んな反論であった。

松竹はその後、島渚を監督に抜擢、昭和三十五年(1960)「青春残酷物語」、「太陽の墓」を制作し、松竹にヌーベルバーグ旋風を巻き起こした。

「思想の科学」を一年勤めた後、フリーの映画評論家として活躍、昭和四十四年に出版した「黒澤明の世界」、その後、「日本映画史・全四巻」を発行、平成七年度(1995)の芸術選奨文部大臣賞を受賞する。

日本映画と並行して、アジアの映画にも力を入れ、国際交流基金の短期派遣事業で、日本文化紹介のため、山田洋次監督とタイ、フィリピン、インドネシアを訪問、山田監督の「幸福の黄色いハンカチ」等優秀作品の上映会を開催、また、昭和五十七年(1982)、東京で「南アジア映画

祭」を開催、先の三カ国に加え、インド、スリランカの五ヶ国の十一作品を上映、五万人の入場者を集めた。

妻の久子と一緒に出版した映画雑誌「映画史研究・全二十三号」は、昭和四十八年から平成二年までの十七年間の自費編集であった。

平成元年には、映画文化に貢献した功績で「川喜多賞」が佐藤夫妻に贈られた。

昭和五十年（1975）横浜駅前に今村昌平が二年制の横浜放送映画専門学院を開校、平成二十三年（2011）、川崎市に、日本映画大学が開校し、初代学長に就任した。

「映画づくりの実習というのは、頭を使うことが多いし、社会や人間、その心理とかものの考え方の知識や観察に追うところが非常に大きいのです。」

と、メッセージで語り掛けている。

平成二十六年十一月に亡くなった俳優、高倉健を追悼して、日本はもとより中国で多くのファンに親しまれたことについて、「文化革命後、娯楽を求めている中国で（1976）、公開された「追捕」、日本名「君よ憤怒の河を渉れ」の映画を見たことが切っ掛け」と言っている。

紫綬褒章、韓国・王冠文化勲章、フランス芸術文化勲章・レジオンドヌール勲章シュヴァリエを受賞している。

(3) 同好会報告

・野球同好会 高橋清文監督

前橋 RC との交流戦 5/28（土）ゴルフ、29（日）野球です。28日 18:30～合同懇親会です。懇親会のみ参加も歓迎いたします。参加可能な方は事務局までご連絡下さい。

・料理研究会 吉田幹事

19日、第16回料理研究会を開催いたしました。天津飯・麻婆豆腐を作りました。次回は手打ちうどんの予定です。日程が決まりましたらご案内いたします。

(4) 各種ご寄付の発表

米山奨学会寄付発表(若杉 武副委員長)

徳永 昭輝

(5) ニコニコボックス紹介(白勢 仁士委員長)

・竹石 松次君 尊敬する北方文化博物館の伊藤文吉館長さんをお迎えしてニコニコします。

・岡田茂久君 結婚記念日に素敵なお花を頂きました。ロータリークラブに入会して3年。妻は毎年驚いています。

・白勢 仁士君 結婚記念日のお花有難うございました。

(6) 卓話「日本人の忘れもの」

北方文化博物館館長 伊藤 文吉氏



(7) 5月24日例会の出席率 68.09%

会員数100名(出席免除会員 9名)

出席者64名(出席免除会員4名を含む)

(2週間前メーク後 85.26%)

6月7日の例会予定

会員スピーチ

「6月は、ロータリー親睦活動月間です。」

(株)新潟テレビ21 代表取締役社長 玉 知夫君

新潟ロータリークラブホームページアドレス

<http://www.niigatarc.jp/>